

# 2024年度 第2回 朝日医療専門学校広島校 自己点検自己評価結果

\*自己点検自己評価委員会

開催日時 : 令和7年3月2日(月) 16時15分～17時15分  
 場所 : 朝日医療専門学校広島校 応接室  
 出席者 : 柿原、吉川、山田、上田、河原、秋山、森田

自己評価 : 1:不適切 2:やや不適 3:ほぼ適切 4:適切

自己評価(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育成人材像)		
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>教育理念や教育目標等については、本年度においても教務部が主体となり、新年度に実施する学年別ガイダンスにて教育訓練の一環として周知するようブラッシュアップに努めた。また、入学式等の行事での挨拶、学生便覧へ記載、校内掲示(1Fロビー、教職員室)及びホームページ上へ掲示することを徹底し、学生および保護者にむけて周知継続を図っている。</p>	<p>今後は例年実施するガイダンスで感じた課題点をより良いものにするべく、教職員全体の意識を高めたうえで改善点を模索していきたい。ただ一度の意識づけでより良いものにできることではないことを念頭に、組織全体で周知継続を実践していく。</p>
(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)		
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>評議員会および理事会で承認された経営方針や事業計画をもとに学校長の指示の下、組織的に運営している。また、各部署の管理者に対して、年度別の事業報告と事業計画の立案を求め、広島校として策定したものを評議員会で報告のうえ審議を図っている。</p>	<p>評議員会および理事会で承認された経営方針や事業計画は、広島校の管理者会議にて報告するだけでは教職員全体へ伝わらない。そのために学科会議および常置委員会を通じて検討内容や承認事項の把握に努める。そして、教職員全体会議で周知事項を共有し、期中には事業報告や事業計画の進捗状況の経過報告を求める。</p>
(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)		
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>年間を通して補習・チューター制度を整え、継続的に指導を実施している。また、月1回、第3学年を対象に模擬試験を両学科とも実施した。                      第2学年に対しても国家試験への見通しを持たせるために、1回ではあるが模擬試験を実施し、学生・教員ともに現状を把握するように努めた。                      第1学年・第2学年の補習体制にばらつきはあるものの、継続的に実施することができ、学生の参加率も高いものがみられる。</p>	<p>次年度に向けて、全校的な指導体制を改めて見直し、補習指導体制の強化、空き教室の有効活用等について検討していく。</p>
(4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)		
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>就職希望者に対する就職率は100%を維持している。                      昨年度は最終的に退学率が5%を超えたが、今年度は3%未満である。                      国家試験合格率は両学科ともに全国平均を上回る水準で推移しているが、基礎学力が低い学生も多いことから、今後の見通しは決して明るくない部分もある。本校の使命である実質合格率の向上を今後も目指していく必要がある。</p>	<p>実質合格率の向上や退学率5%未満を維持するために、今後も丁寧な学生指導を行っていく。                      特に成績不良による退学者数を抑制するためにも、現在の補習体制をより高度に組織化することを着実に進めていく。</p>
(5)学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)		
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>学生生活上で起こる相談について、クラス担任を中心に面談できる体制をとっている。健康面で不安を抱える学生もいることから、学力偏重にならないように意識した指導も行っている。                      また、悩みを抱える学生に対してクラス担任のみに負担がかかることがないよう、各学科全体で情報共有を行い、複数名で対応している。                      就職・進学支援については、担任・キャリア担当が中心となり、第3学年の学生全員の進路希望の聞き取りと面談を行い、就職先の斡旋を行っている。</p>	<p>学生指導・学習支援について、即効性を追い求め過ぎることなく、あくまでも学生生活3年間を通じた成長を意識した指導・支援を行っていく。                      また今後は、相談体制について全校的な取り組みとしての組織づくりも検討していく。                      就職・進学支援については、学生の希望に沿える形での進路実現を今後も目指していく。</p>

	(6)教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)	
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>西広島駅南口西地区周辺の再開発事業が都市決定し、竣工に向けた動きが見えてきた。本校においては、経年劣化による修繕及び安全・防災面の老朽化対策については、予算を慎重に計上し、適宜計画的に進めている。</p> <p>ソフト面においては、Web上で出欠登録が可能な機能の改善点があることが分かり、次年度から修正運用ができるよう準備を進めている。</p>	<p>ハード面における教育環境の改善及び修繕においては、再開発事業の進捗状況を見据え適宜対応していきたい。</p> <p>ソフト面における教育環境の改善を前提として導入した出欠状況や成績が閲覧できるWeb機能を、学生・保護者がより分かりやすく把握できるよう改善し、より効果的な運用ができる方策を検討する。</p>
	(7)学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)	
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>今年度も18歳人口の減少、広島県の転出超過数4年連続全国ワースト1位・都道府県別大学進学率上位・就職求人数の増加といった影響もあり、昨年度と同様に高校生の学生募集を巡る環境は極めて厳しい状況であった。しかし、昨年度の反省から広報活動を強化したことでオープンキャンパスへの高校生の動員は昨年度より増加となり、きめ細かな対応によって若干ではあるが高校生の出願数を増やすことができた。また、『特待生制度』も昨年度より広く認知され、エントリー数も増加した。ただ、昨年度の高校生の大幅減をカバーした社会人出願者が本年度は予想外の減少傾向となった。社会人オープンキャンパスや個別説明・相談会では昨年とほぼ同数と接触し同様の対応をしたが、仕事や家庭の都合といった様々な理由で予想よりもかなり少ない出願状況となった。次年度も学生募集の状況は引き続き厳しいことが予想されるが、教職員が一丸となって広報・募集活動を推し進めていく必要がある。</p>	<p>次年度も18歳人口の減少・県外への流出・県内外の大学&amp;他の専門学校の攻勢・就職求人の増加といった状況は今年度と変わらないことは想像できる。よって、今までと同様に校内・会場ガイダンスへの積極参加・スポーツチームや高校部活動への積極関与でより多くの高校生との接触・対話を図るとともに、鍼灸師・柔道整復師・朝日医療広島校の知名度・認知度の向上に注力し、入学希望&amp;入学検討者の母集団形成に取り組む必要がある。また、当然ではあるがオープンキャンパスや個別相談等で来校する入学候補者である高校生とその保護者・社会人とその関係者及び家族等に対して今まで以上に丁寧かつ親切な対応を全員が心がける必要もある。</p> <p>次年度の大きな変化としての取り組みとしては今までの入試制度を大幅に見直す予定である。入試区分を増加させることで対応する教職員側にとっては多少複雑にはなるが、より多くの高校生・社会人の入学希望者が以前よりは出願しやすい入試制度を導入する予定である。</p>
	(8)財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)	
	現状・課題	今後の改善方策
2	<p>公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会で審議のうえ、現状は厳しいながらも適切な財務状況であると承認を受けている。</p> <p>本校の事業収支予算の計上については、各部署で詳細に科目予算を立案し、対前年比を意識した予算計画(案)を計上し、無駄な支出を抑えた予算執行を実施している。</p> <p>退学者の抑制はできたが、入学者数減少の情勢もあり、財務基盤の柱となる学納金収入は減収の見込みである。</p>	<p>各部署の科目予算ごとの執行状況を厳しく審査し適切且つ正確な財務状況を把握したうえで、最終的に全体予算を抑えることに注力する。次年度においては、物価上昇による支出額が増えることは確実であり、在学者数減少による減収も決定的である。コスト削減を強く意識し、物価上昇や少子高齢化の社会情勢を如何に乗り越え、財務基盤の柱となる学納金収入の増加に向けた施策として全校体制で入学者数の確保と退学者数の抑制を徹底していく。</p>
	(9)法令等の順守(個人情報保護、学校評価)	
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>学校教育法施行規則の専修学校設置基準に則り、適正な運営を実施している。また、各学科における課題解決に当たっては、各々の養成施設指定規則との整合性を図り、コンプライアンスを徹底している。</p>	<p>引き続き教職員の適正人員の確保と配置に気を配りつつ、イレギュラーな対応に迫られることのないよう準備と対策を実施しておく必要がある(休職対応など)。</p>
	(10)社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)	
	現状・課題	今後の改善方策
3	<p>地域住民を対象とした100歳体操を本校2階柔道場にて行政と連携し実施することで、学校の認知度は徐々に高まっている。</p> <p>学校所在地の地域団体や文化財団から毎月のようにお声かけを頂きながら、教職員・学生が一丸となりボランティア活動やスポーツ活動に積極的に参加し、地域に必要な教育機関として人材による地域貢献活動を支えている。</p>	<p>学校の認知度向上に比例し、学校へ届く苦情も多くなることが予測される。地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進することは、地域の皆様から見られる眼も厳しくなることだと教職員や学生は自覚し対策を講じる必要がある。</p> <p>本校の資源(人材・教材・施設)を活かした社会貢献活動については、引き続き主体的に実施することを目指し、当事者が有意義な活動だと捉えられるよう行政のアドバイスを頂戴しながらチャレンジしていきたい。</p>